

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2775500834		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム寿光園		
所在地	大阪府八尾市楽音寺2丁目125番地		
自己評価作成日	平成 24年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 6月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775500834&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775500834&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 4月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者いきいきと自身を持って生活を送っていただくため、掃除や洗濯、食事などの日常生活場面を中心に、利用者に何らかの役割を持ってもらっていると、レクリエーションや四季折々の行事を企画し、生活の中に楽しみを持っていただけているよう努力しています。また、健康管理の面では、特養の診療所との連携を密にし、利用者の健康上の問題や不安な点などいつでも相談できる体制が作られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生駒山系が見える、周囲には緑が多い環境の中で、利用者は落ち着いてゆったりと暮らせるグループホームです。開設10年の事業所は地域密着型サービスの先駆者的な役割を果たすグループホームとして行政との信頼関係も構築されており、市の担当者とも連携ができています。管理者は地域密着型サービスの意義を理解し、地域自治会の会合や、市の認知症研修会等の講師として地域の認知症啓発に貢献しています。運営理念に「あたたかい心、あたたかい笑顔、あたたかい手」を掲げ、職員間で共有しています。管理者と職員は生活の基本である食事と入浴のケアを共通した認識とし、「あたたかさ」の理念に基づいたケアを実践しています。利用者は明るく、笑顔が多くみられます。職員間はお互いに気遣いができ、話しやすく働きやすい職場環境になっています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事業所内に掲示しており、パンフレットにも記載されている。また、申し送りなどの中で話したりしている。	「あたたかい心、あたたかい笑顔、あたたかい手」を事業所の理念として、事務室に掲示し、毎日の申し送りの中で確認しています。職員は地域密着型サービスの意義を理解し、日々のケアを心がけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議などで地域の方々と情報交換をしているほか、夏祭りなど施設の行事に参加していただいている。	管理者は、利用者が地域住民として暮らすことを大切に考え、近隣の自治体や町内会の会合にも積極的に参加し、利用者の状況報告や介護保険情報の提供、認知症の啓発などを行っています。月に数回、地域住民の方がホームの見学に来るなど、地域に開かれた対応をしています。ホーム周辺の水害対策について、近隣住民からアドバイスを得た事例があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、時期に応じた議題を上げ、話しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施し、そこでの意見を参考にしている。	運営推進会議は民生委員、高齢クラブ、地域包括支援センターの職員、ホームの職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。会議では事業所の活動状況や行事、利用者の生活状況などの報告、地域での認知症研修会や講演会、地域との交流・連携情報の報告を行っています。会議に参加できない職員には、月1回のミーティングで情報を共有しています。利用者には、他の機会に会議内容を説明しています。運営推進会議でも議題になった、「利用者が日頃散歩に使うコースに信号機の設置願い」を地域自治会の会合に議題提起をしてもらった事例があります。会議は平日開催のため、家族の参加が少なく、今後は会議内容を郵送するなどの方法を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課と連絡を密にし、情報の交換を行っている。	地域密着型サービスの先駆者的な役割を果たすグループホームとして、行政との信頼関係も構築されており、市の担当者とも密に連携ができています。外部評価調査報告や事故報告の体制はあります。市の担当者、市社会福祉協議会の担当者等は月1回、ホームへの訪問があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>申し送りや施設内研修などを通じ、身体拘束が禁止であることを理解し援助にあたっている。</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、見守りをしています。基本、玄関の鍵は開錠し、利用者は自由に出入りができるようになっています。外出を察知した際はさりげなく声かけを行い、一緒に散歩をする等、利用者の意向に沿った支援を実践しています。職員研修や新任研修を行い、職員は身体拘束をしないケアについて理解し、日々のケアに取り組んでいます。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時や更衣時など、身体のチェックをして注意をしている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業を利用している利用者があり、関係者と話し合う機会がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面接時に重要事項の説明を行っている。その際に不安や疑問点など尋ね、説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けているほか、市の介護保険課や国保連の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。また、第三者委員の協力もあり、事業所内に苦情受付の案内を掲示しており、運営に反映させる体制がある。	法人の入り口に意見箱を設置し、意見があれば、検討する体制があります。職員は、家族の来訪時に要望や意見を聞くようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りなどで意見を聞いたり、職員の自己評価を年に2回実施しており、その中で職員の意見や要望を聞く欄を設けている。	職員の意見を出やすくするために職員の更衣室に意見箱を設置しています。自己評価を年2回実施し、管理者は個人面談等で意見や要望を聞くようにしています。職員からの要望で駐輪場が設けられるなど、意見は反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設内を巡回し、現場スタッフに声を掛けると共に、管理者に職員の処遇向上についての話し合いを行う機会を随時設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会、大阪府のグループホーム協議会に参加し、情報の交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えがあるときには必ずその場で聞くように心掛けているとともに、職員も利用者と一緒にフロアで過ごしている時間を設け話しを聞けるようにしている。また、みんなの前で話しにくいことなどは、1対1になれる場所で不安や不満など聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族と話しているほか、面会時に希望等聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の環境や性格に応じてサービスの選択肢を提示して相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々職員と利用者が一緒に過ごせる時間を設け、利用者ができることを一緒にいき、同じ時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに必ず職員と話す機会を設けて、現状説明や対応方法など一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に家族に協力を求める声掛けを行っている。また、回想法など取り入れたコミュニケーションを行い、援助に活かしたり、テレビや写真など馴染みの場所があると一緒に見て話しをしている。	職員は、利用者のレベルに合わせ、一人ひとりの思いを聞き取っています。身体機能の低下に伴い、馴染みの所へ行きにくくなった利用者に、日々の会話の中で本人から生活歴を聞き取り、馴染みの場所を連想できる話題をつくり、本人がこれまで大切にしてきた思いへ寄り添う支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や認知症の程度、身体的なレベルの把握に努め、利用者の中に職員も入り、利用者同士が円滑に行動できるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、グループホームに関する相談だけでなく、福祉全般の相談はいつでも受けることを伝えると共に、いつでも遊びに来てくれるよう伝えている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に生活している中で、利用者と話をして希望や悩みを聞くように努めている。	職員は家族からの聞き取りや、日常の関わりの中から、一人ひとりの意向や思いの把握に努めています。職員はホームの生活は家での日常生活の延長が基本と考え、ゆったりとした自由な生活が送れるような支援を実施しています。身体機能レベルが低下した利用者には、洗濯物たたみなど、無理のない程度で本人のできる事は継続してもらい、その人らしく生きがいのある暮らしができるような支援に繋げています。	
----	---	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に昔の話を聞きながら把握するように努めているほか、家族に情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのレベルの把握に努め、日常生活の中でできることを把握し援助に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに家族の希望などを聞き、職員と話し合い、本人が安心して生活ができるよう計画作成に努めている。	大阪認知症高齢者グループホーム協議会版の介護計画様式を使用しています。計画作成担当者は、家族の面会時に意見や希望を聞き取っています。モニタリングは3カ月に1回行っています。計画変更時は家族や職員と話し合い、意見を反映して介護計画を作成しています。今後は、看護師との連携医療日誌の意見も参考に、介護計画に反映させていく方向です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化などケース、日勤日誌などに記録するようにしている。また、連絡帳などを活用し、職員が利用者の変化の把握できるようにし、介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	既存のサービスに固執せず、希望に応じ考えて対応できる体制がある。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	ボランティアさんによる演芸会などに参加し、生活を楽しめるよう心掛けている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入所時に協力医療機関を伝えるほか、希望の医療機関を聞くようになっている。また、内科、精神科の医師の診察を決った曜日に受けることができる。	母体法人に診療所が併設され、協力医療機関として24時間体制があります。日頃から地域の医療機関とも連携を図っています。利用者は週1回、併設の診療所より内科を受診することが可能です。精神科、歯科は月1回往診があります。看護師は24時間連絡が取れる体制があり、日頃の健康管理の情報は共有できています。これまでかかりつけの医療機関への受診は、家族の協力で行っています。他科受診の際には情報を提供する体制を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師がいつでもこられる体制があると共に、いつでも相談でき、日常の健康管理など実施してもらっている。また、24時間体制で看護師と連絡が取れる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は病院の地域医療の職員と連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながらサービスの提供を行っている。また、利用者のレベルの把握に努め、グループホーム職員、医師、家族との面談を行う機会を作り、今後について話ができる体制がある。	終末期医療、看取りは行っていない状況です。家族には早い時期から話し合いをして、重度化の際には併設特養への入所支援を行っています。ホームの方針はありますが、重度化してもグループホームでの共同生活が可能な場合は、家族、職員、医師など関係者で話し合い、支援を行っていく体制があります。今後は、延命医療についても家族と話し合うことを検討中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルなど作成しているほか、緊急時に対するの対処方法を研修や申し送りなどで話している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と合同で避難訓練、初期消火訓練を行っている。また、施設内研修などで話をしている。	年2回、併設特養と合同で避難訓練を実施、1回は消防署指導で行っています。災害時のマニュアルは作成し、研修を行っています。夜間を想定した災害対策は全職員で共有しています。災害に備えた食料は、併設特養に備蓄されていますが、水と非常食はホームの倉庫に保管されています。	法人全体で避難訓練を行っています。しかし、ホームの職員については、参加できていない状況です。地域との連携を鑑み、グループホーム独自の避難訓練を工夫されてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの対応や声掛けを変え、声を掛ける際は声のトーンや周囲の環境などを考慮して対応している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を行っています。利用者との会話や声かけ時にはホームの理念をふまえて「あたたかい笑顔」の対応を心がけています。個人情報保護方針と利用目的の規程を作成し、毎年全職員に研修を実施しています。職員には、入職時に誓約書をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択権のあるような声掛けをするよう心掛けている。また、利用者、職員ともが納得して活動ができるよう話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気分や体調などに合わせて一日を過ごせるよう支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容師の来園した際に対応している。また、衣類が汚れたりすれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルの把握に努め、できる範囲内で一緒に行っている。	管理者と職員は、生活の基本である食事が利用者に喜びや楽しみをもたらすことを理解して支援に繋がっています。併設特養のメニューをベースにして、ホーム独自で食材の購入や、調理の準備を利用者と共に行っています。好みや嗜好については家族から聴き取り、日常の会話の中からも利用者から直接聴き取りを行っています。食事は職員も同じテーブルで、利用者と同じ物を食べ、会話を楽しみながら利用者との時間を過ごしています。テーブルの上に置いてある観葉植物等が、対面の人への目隠しとなり、それぞれがお互いに適度な距離感を持ち、一人ひとりのペースで食事が楽しめるような支援を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確保のため、特養の献立を参考にしている。また、定期的に水分補給に努めており、なかなか水分をとってもらえない利用者に関しては回数を多くしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、自分でできない利用者さんに対して、必ず歯磨きの声掛けを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に応じてトイレへの誘導を行い、失敗の少ないよう支援している。間に合わないこともあるためリハビリパンツや尿とりパットなどを併用して周囲の目からの配慮をしている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの排泄行動に寄り添った支援を行っています。リハビリパンツの利用者は早めに声をかけ、トイレへ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 日常生活場面での動きを中心に、参加してもらっていると共に、食事摂取や食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面での動きを中心に、参加してもらっていると共に、食事摂取や水分補給などに努めている。また、医師との相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後からの時間は入浴の時間としており、その時間内で希望に応じ行っている。入浴中は利用者に合わせたペースで入ってもらっている。	毎日午後の時間は入浴ができるようになっています。2日に1回のペースで入浴支援を行っています。希望があれば毎日入浴が可能で、毎日入浴をする利用者もいます。入浴を好まない利用者には時間をおき、声をかける職員を変えて入浴ができるようになり、また、入浴時以外の着衣交換やトイレ介助時に皮膚の清潔について確認ができた事例があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に何かしらの役割を持ってもらうことで夜間の安眠につながるよう支援している。昼間でも横になって休憩をとれる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の役割を薬剤情報のファイルやケースにはさむなどし、職員が確認できるようにしている。また、服用時は必ず名前と顔を確認して服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活場面を中心に、利用者の得意なこと、不得意なことなどの把握に努め、役割を持ってもらえるよう支援している。また、レクリエーションや書道なども取り入れ楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出など家族に協力をしてもらっているほか、時々希望ある利用者と散歩や買物に出かけている。また、季節に応じた外出をしているほか、家族に協力してもらい外出してもらっている。</p>	<p>散歩の時間を利用して、2日に1回は近くのスーパーへ職員と共に食材の購入に出かけています。また、季節毎に衣服を買いに近くの店へ行く利用者もいます。家族の協力を得て、墓参りや親戚の人に会いに出かける利用者もいます。地域の夏祭りや季節行事には家族へも参加を促し、協力を得て、利用者全員が参加して楽しんでいます。毎年、春は近所の公園へ弁当持参で花見に出かけ、職員は利用者が四季を感じ、五感に刺激が得られるような支援を実施しています。管理者・職員は、重度化して外出ができにくくなった利用者にも施設周辺の散歩など、気候に合わせて時間を作っていく支援に取り組んでいます。今後、隣接している特養に喫茶室を整備し、利用者が外出気分を日常的に楽しめるような取り組みを検討しています。</p>	
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望により自己管理している利用者もいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をし、季節感を出しているほか、職員と過ごせる時間を持ち家庭的な雰囲気が出せるよう努力している。	1階にあるリビングダイニングは広く、大きな窓からは明るい光が入り、利用者がゆったりとした気分で過ごせる雰囲気になっています。窓から山や木々の緑が目に入り、季節感や天候の変化が感じられ、居心地よく過ごせる空間になっています。中央に置かれている大きな楕円形のテーブルは、利用者と職員がゆったり会話を楽しめる場所であり、利用者のスペースとしての居場所ができています。テーブル上に飾られた観葉植物や季節の花は、生活感を取り入れた家庭的な雰囲気で、対面の人とのパーティーにもなり、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫しています。テレビの近くには利用者全員が座れるソファがあり、マガジンラックには新聞、雑誌、週刊誌等が並び、家庭的な居間の雰囲気になっています。奥の和室は休憩や団欒、洗濯物をたたむ等多目的に活用し、利用者が自由に過ごせるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にはたたみの部屋もあり、一人になれる空間はある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人が使い慣れたものなどを持参してもらうように家族には話をしており、できるだけ入居前の部屋の感じに合わせた居室作りができるよう努めている。</p>	<p>居室は2階にあり、エレベーターと階段を利用して上がれます。各居室には大きな窓があり、明るくて風通しが良く、外の景色を楽しむこともできます。部屋は畳とフローリングの2タイプがあり、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるように、ベッドやもの入れが配置されています。家族の写真、仏壇、テレビ、椅子、扇風機など、思い出の物や使い慣れた物を自由に持ち込み、居心地を良く過ごせる部屋になっています。空調は居室毎に調整ができ、管理は職員が協力して支援をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手摺りなどがあり、職員の見守りの中、利用者ができる限り自立した生活ができるよう配慮している。		